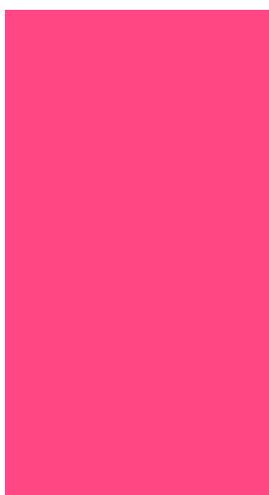




門真市立四宮小学校・北巢本小学校 統合整備基本計画（概要版）

1.基本計画策定の背景・目的	1
2.新たな学校の基本コンセプト（将来像）	2
3.導入機能.....	4
4.学校統合の時期・スケジュール	6
5.施設配置プランの検討	7
6.配置計画.....	9
7.工事期間中及び開校に向けた課題等	11



令和6年7月
門真市教育委員会

1. 基本計画策定の背景・目的

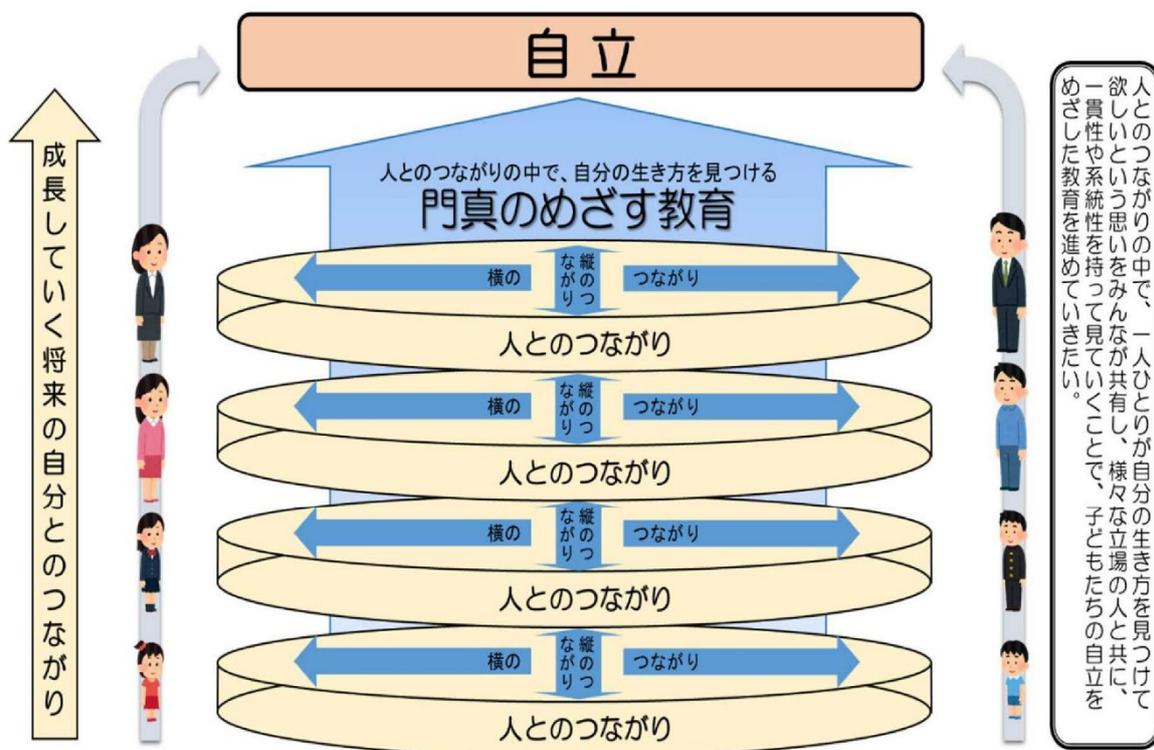
子どもたちを取り巻く環境や教育内容は大きく変化しています。子どもたちがこの変化にしっかりと対応していくために、従来の学校のあり方から大きく変わらなければならない時が来ています。

門真市教育委員会では、令和3年3月に「門真のめざす教育とこれからの学校づくり実施方針」を策定し、当該実施方針において「両校の改修あるいは建替えに合わせ、四宮小学校と北巢本小学校を統合し、「門真のめざすこれからの学校づくり」に対応した小学校を配置すること」としました。

当該新設校の整備にあたっては、子どもたちだけではなく、地域、ひいては本市にとって魅力ある学校づくりをめざして、学校づくり基本計画を策定しました。

門真のめざす教育とは・・・

- 様々な人との「つながり」の中で子どもたちを育むことが重要になりますが、様々な人との「つながり」の中でも、門真においては、とりわけ3つの人との「つながり（縦のつながり、横のつながり、将来の自分とのつながり）」を創ることを大切にしていきます。
- この3つの人との「つながり」を軸に、子どもたち一人ひとりが自分の生き方を見つけてほしいという思いを子どもに関わるみんなが共有し、様々な立場の人とともに、一貫性や系統性を持って子どもを見守ることをとおして、門真のめざす「将来の自立をめざして自分の生き方を見つける教育」を推進していきます。



出典：門真のめざす教育とこれからの学校づくり実施方針

2. 新たな学校の基本コンセプト（将来像）

門真市立四宮小学校・北巣本小学校を統合することで出来る新しい学校は、市の定める学校教育に関する方針を踏まえるとともに、現小学校のこれまでの取組や地域との関わりを十分に配慮して基本コンセプトを設定します。

門真市では、将来の自立をめざして自分の生き方を見つける教育をめざし「縦のつながり」「横のつながり」「将来の自分とのつながり」といった3つの人とのつながりを創ることを重視しています。また、現小学校からは子どもたちも先生も楽しみながら通える小学校、のびのびと学べる、個性や多様性を認められる子ども中心の小学校、地域とともにある学校の整備が求められています。

以上を踏まえ、新しい小学校のあるべき姿は「子ども」と「地域」を結びつけ、この新しい学校で子どもたちは様々な学び・取組の中で「成長していく将来の自分とのつながり」を考えるようになり、人とのつながりの中で、自分の生き方を見つけ、子どもたちそれぞれが自立できる環境を整えることであると考えます。

なお、新しい学校を整備する上では、安全・安心であり、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを取り入れ、社会動向を踏まえ環境負荷低減を考えた学校づくりが必要です。

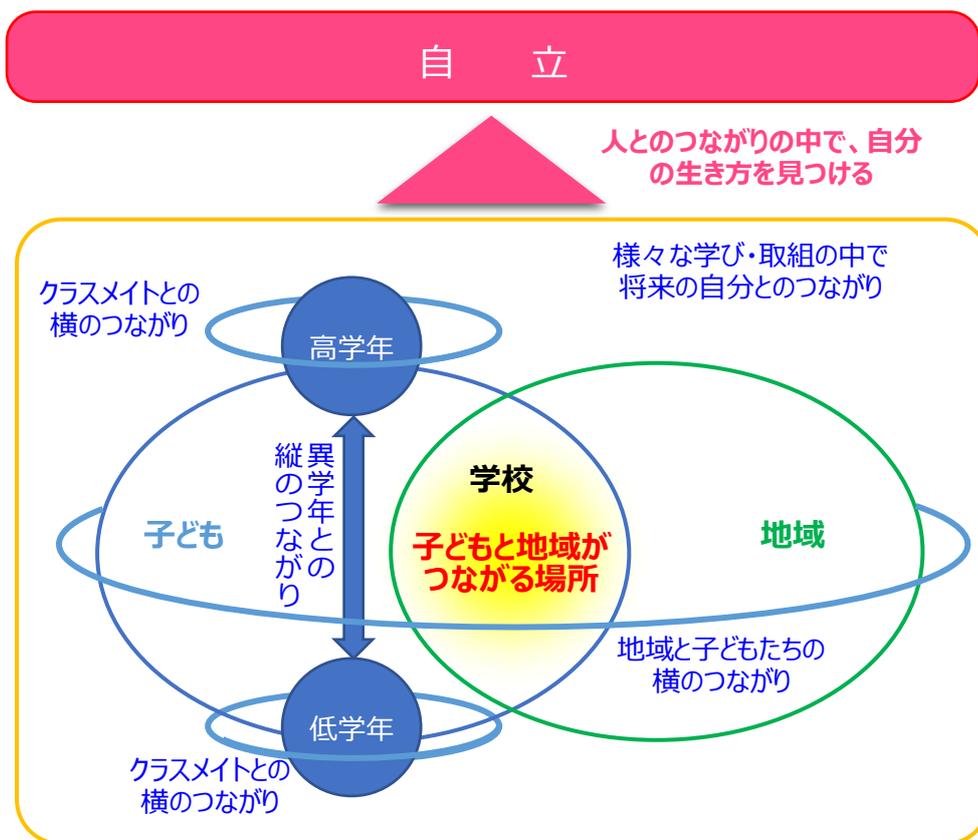


図 新しい小学校と子どもたち・地域の関係性（将来イメージ）

このような「子ども」と「地域」と「学校」という関係性を構築するため、新しい小学校は以下のような基本的コンセプトによって子どもたちと地域を結び付ける中核的存在として整備します。

新しい小学校の基本コンセプト

基本コンセプト1：子どもたちがつながってわくわくできる小学校

→行くこと自体が楽しいと思える学校

- 子どもたちが過ごしたいと思う環境や積極的に自分で学びたい環境を創出（子どもたちが好きな空間、お気に入りの空間があり、過ごし方や学び方等を選べる自由がある）
- 学年を超えた人とのつながり（縦のつながり）、同学年やクラスメイトなどとのつながり（横のつながり）を生み出す環境を創出

基本コンセプト2：門真市のめざす教育を実現する小学校

→多様な学習をもとに自分たちで考え行動できる子どもを育てる学校

- ICTを基盤とした先端技術等やグローバル化に対応した学びの機会を提供
- 多様な教育活動に柔軟に対応できる教育環境を整え、すべての子どもたちに公正で質の高い教育を提供

基本コンセプト3：地域とともにある小学校

→既存の地域活動を活かしながら子どもたちが人とつながる力を身に付けることができる学校

- 地域の人や保護者が積極的に学校に関わりをもてる空間を創出
- 地域の人などとの触れ合いを通じ、多様な人間関係を構築できる環境を創出

＜上記の基本方針を支える学校の整備の考え方＞

- 誰もが、安全・安心に過ごせる空間
- ユニバーサルデザインを意識した空間
- 環境負荷低減を考慮した空間

3. 導入機能

1) 必要な導入機能

導入機能は、「小学校設置基準」「小学校施設整備指針」において設置することが位置づけられている諸室を基本に、基本コンセプトや教職員の意向、社会潮流、近年の学校整備の事例も考慮し、新しい学校として必要な導入機能（施設）を設定します。

表 必要な導入機能（施設）

新しい小学校の基本コンセプト		必要な導入機能(施設)
基本コンセプト1 子どもたちがつながってわくわくできる小学校	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが過ごしたいと思う環境や積極的に自分で学びたい環境を創出(子どもたちが好きな空間、お気に入りの空間があり、過ごし方や学び方等を選べる自由がある) 	<ul style="list-style-type: none"> メディアセンター 子どもたちの自由活動・交流スペース(学年ラウンジ) 屋外運動場・屋内運動場 多目的ホール・ランチルーム 音楽教室 図画工作教室 家庭教室
	<ul style="list-style-type: none"> 学年を超えた人とのつながり(縦のつながり)、同学年やクラスメイトなどとのつながり(横のつながり)を生み出す環境を創出 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの自由活動・交流スペース(学年ラウンジ等)
基本コンセプト2 門真市のめざす教育を実現する小学校	<ul style="list-style-type: none"> ICTを基盤とした先端技術等やグローバル化に対応した学びの機会を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動室 メディアセンター
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教育活動に柔軟に対応できる教育環境を整え、すべての子どもたちに公正で質の高い教育を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的室 特別支援教室 通級による指導のための関係室 普通教室 理科教室・音楽教室・図画工作教室、家庭教室等(STEAM教育対応)
基本コンセプト3 地域とともにある小学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人や保護者が積極的に学校に関わりをもてる空間を創出 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動室等 多目的ホール・ランチルーム 音楽教室 家庭教室
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人などとの触れ合いを通じ、多様な人間関係を構築できる環境を創出 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外運動場・屋内運動場 放課後児童クラブ

2) 各導入機能（施設）の関係

各導入機能（施設）の関係は以下のとおりです。

メディアセンターを核とし、その周りに特別教室である理科教室、外国語活動室、音楽教室、家庭教室、図画工作教室等を配置することで連携したSTEAM教育を推進します。

また、普通教室には様々な活動や交流スペースとして活用可能な多目的室や学年ラウンジなどを一体的に配置することで自発的な活動を促すワークスペース等を確保し、子どもたちの横のつながりを高めます。特別支援教室、通級指導教室は同学年の教室の子どもたちとの横のつながりを高めるため、交流スペースなどでつなぎます。

PTA 活動室等を整備するとともに、学校施設である屋外運動場、屋内運動場、家庭教室、音楽教室、多目的ホール・ランチルームについては相互利用を図ります。放課後児童クラブについては必要に応じて地域が関わりを持ちながら子どもたちを見守り育て子どもたちの自立を推進します。

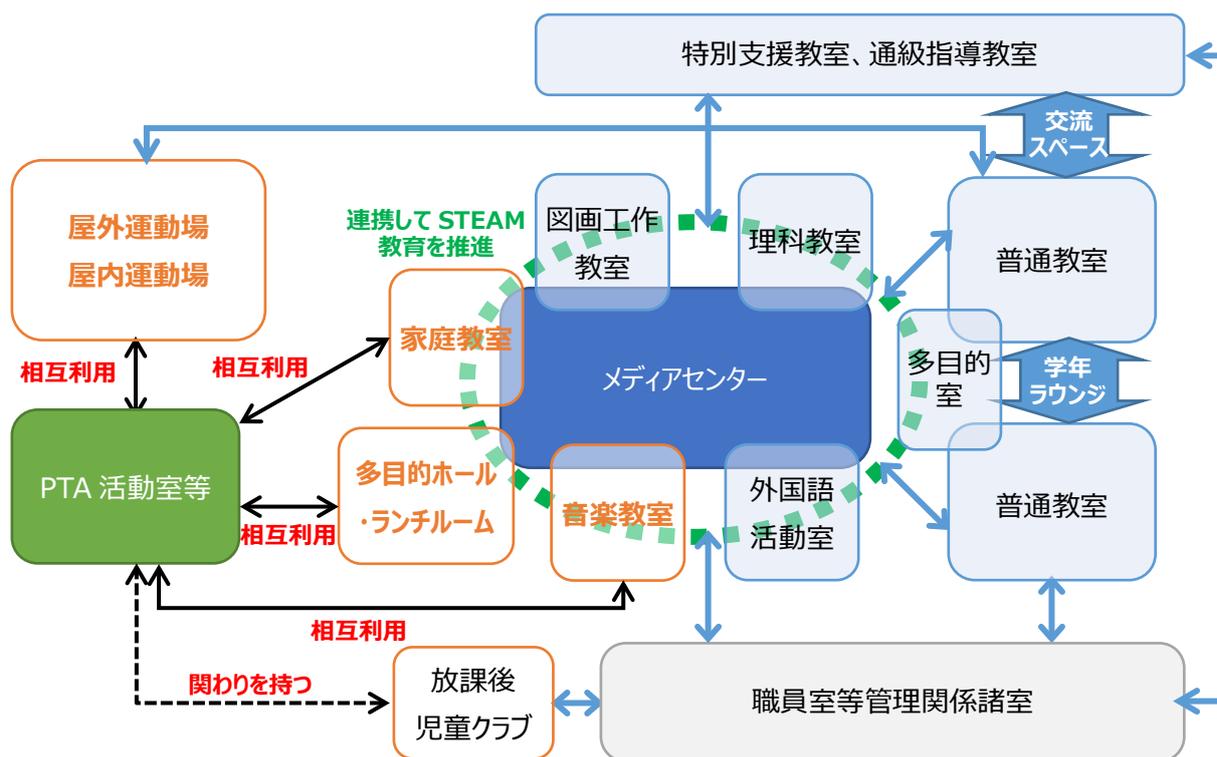


図 導入機能（施設）の関係・利用範囲の考え方

3) 適正な施設規模の算定

学校の規模は、児童数及び学級数を踏まえ校舎、屋内運動場、給食調理場等の面積を算定します。

新校舎に必要な普通教室の教室数は令和5年度の児童数から、門真市における新生児の出生数を用いて児童数の将来推計を行い算出します。(予測が困難である転入者や転出者等は考慮しない) また、特別支援が必要な児童数、通級指導が必要な児童数に関しては、令和5年度における児童の総数に対する割合を使用し算定します。

以上を踏まえ新しい学校の規模は以下を想定します。

表 新しい小学校の学校規模 (予定)

延べ面積	約 10,000 m ² (校舎、放課後児童クラブ、屋内運動場、給食調理場合む)
児童数	約 450 人
学級数 (令和11年度推計値)	普通学級 : 18 学級(各学年3学級) 特別支援教室: 5学級 通級指導教室: 3学級

4. 学校統合の時期・スケジュール

新校舎の建設を検討する上で、建設場所や建設中の子どもたちの学校生活の確保が重要になります。教育委員会では、「現在の四宮小学校敷地に新校舎を建設する。建設中、四宮小学校児童は北巢本小学校にて学習する。北巢本小学校校舎で不足する教室分を仮設校舎で対応する。」という考え方を示しています。そのため、まず令和8(2026)年4月より四宮小学校の児童は北巢本小学校へ移動し、小学校の統合を開始する予定です。

四宮小学校は四宮小学校と北巢本小学校の統合後、解体工事を行い、令和9年度より新校舎の工事を進め、令和11年(2029)年4月に新校舎での開校となる予定です。

表 整備スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
新校舎	基本計画策定	基本設計・実施設計			新校舎建設(四宮小学校敷地)		R11.4 新校舎運用開始 (四宮小学校敷地)
四宮小学校			解体設計 (四宮小学校)	解体工事 (四宮小学校)			
北巢本小学校		仮設校舎設計 (北巢本小学校敷地)	仮校舎工事 (北巢本小学校敷地)	R8.4 統合	四宮小・北巢本小統合運用 (北巢本小学校敷地)		

5. 施設配置プランの検討

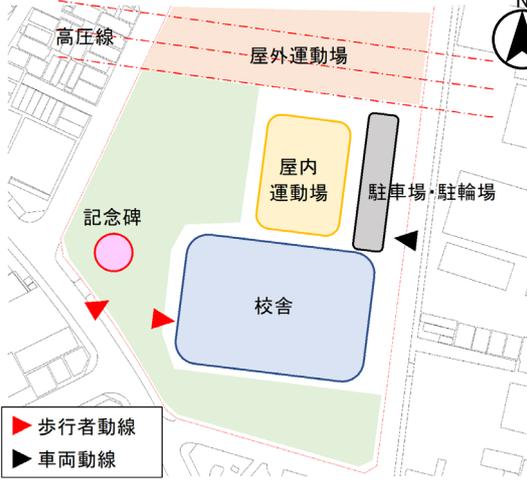
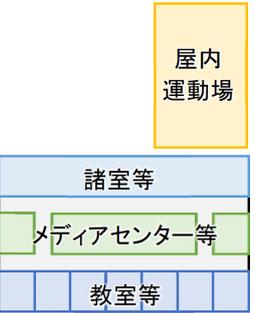
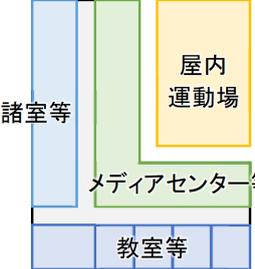
建物の配置については、高圧線の真下を避けることを前提条件とし、配置プラン（案）を4案作成しました。

施設配置プランについての比較検討にあたっては、職員室等の管理諸室は校門や屋外運動場が見渡せる位置に配置し、教室などは日当たりの良い南側に配置することを前提とします。

表 配置プラン案

	A案	B案
配置イメージ	<p>Plan A site plan: The school building (校舎) and indoor sports field (屋内運動場) are placed side-by-side in the center. The outdoor sports field (屋外運動場) is to the north, and the parking area (駐車場・駐輪場) is to the south. A monument (記念碑) is located to the west. A high-voltage line (高圧線) runs along the northern boundary. Pedestrian routes (歩行者動線) and vehicle routes (車両動線) are indicated with red and black arrows respectively.</p>	<p>Plan B site plan: The school building (校舎) is placed to the north, and the indoor sports field (屋内運動場) is to the south. The outdoor sports field (屋外運動場) is to the north, and the parking area (駐車場・駐輪場) is to the south. A monument (記念碑) is located to the west. A high-voltage line (高圧線) runs along the northern boundary. Pedestrian routes (歩行者動線) and vehicle routes (車両動線) are indicated with red and black arrows respectively.</p>
基準階イメージ	<p>Plan A floor plan: Shows a row of classrooms (教室等) at the bottom, a media center (メディアセンター等) in the middle, and other rooms (諸室等) at the top. The indoor sports field (屋内運動場) is shown to the right.</p>	<p>Plan B floor plan: Shows other rooms (諸室等) at the top, a media center (メディアセンター等) in the middle, and classrooms (教室等) at the bottom. The indoor sports field (屋内運動場) is shown to the right.</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> 校舎と屋内運動場を東西に配置し、地域開放予定の屋内運動場に隣接した位置に駐車場・駐輪場を配置することで敷地南側に大きな空間が生まれ、新たな取組等の可能性が考えられるプランである 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎を北側、屋内運動場を南側に配置し、地域開放予定の屋内運動場と駐車場・駐輪場の間に生まれた空間で新たな取組等の可能性が考えられるプランである
施設配置	<ul style="list-style-type: none"> 教室から屋内運動場や屋外運動場への移動がしやすい 屋外運動場へは目線が届きやすいが屋内運動場へは配置の工夫が必要 地域開放で使用する諸室等が屋内運動場や屋外運動場と一体的に利用可能であり、地域開放時のセキュリティゾーンが形成しやすい 屋外空間が南北に分断されている 	<ul style="list-style-type: none"> 教室から屋内運動場や屋外運動場への移動がしやすい 屋外運動場への目線は届きやすいが屋内運動場への目線は教室等やメディアセンター等により届きにくい 地域開放で使用する諸室等が教室やメディアセンター等により分離され、屋内運動場や屋外運動場との一体的な利用や、地域開放時のセキュリティに問題がある 屋外空間が分散しているため利用が限定される
動線	<ul style="list-style-type: none"> 児童の出入口と車両の出入口を完全に分離することが可能である 校門と昇降口の移動距離は短い 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の出入口と車両の出入口を完全に分離することが可能である 校門と昇降口の移動距離が長くなる

子どもの利用として運動場への距離はあるものの、教職員の目線、地域利用のしやすさ、その他屋外空間の一体利用性の高さ、校門と昇降口の移動距離の短さを総合的に考慮し、C案をもとに今後検討を進めます。

C 案	D 案
 <p>高圧線 屋外運動場 屋内運動場 校舎 記念碑 駐車場・駐輪場</p> <p>歩行者動線 車両動線</p>	 <p>高圧線 屋外運動場 屋内運動場 校舎 記念碑 駐車場・駐輪場</p> <p>歩行者動線 車両動線</p>
 <p>屋内運動場 諸室等 メディアセンター等 教室等</p>	 <p>屋内運動場 諸室等 メディアセンター等 教室等</p>
<ul style="list-style-type: none"> 校舎を南側、屋内運動場を北側に配置し、地域開放予定の屋内運動場と屋外運動場に隣接した位置に駐車場・駐輪場を配置することで地域開放のセキュリティを確保しやすいプランである 	<ul style="list-style-type: none"> 屋内運動場を取り囲むように校舎をL型に配置し、地域開放予定の屋内運動場と屋外運動場の間に駐車場・駐輪場を配置することで地域開放のセキュリティを確保しやすいプランである
<ul style="list-style-type: none"> 教室から屋内運動場への移動はしやすいが、屋外運動場への移動距離が長い 屋外運動場も屋内運動場へも目線が届きやすい 地域開放で使用する諸室等が屋内運動場や屋外運動場と一体的に利用可能であり、地域開放時のセキュリティゾーンが形成しやすい 屋外空間が一体的に利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 教室から屋内運動場へはメディアセンター等によって分断され、屋外運動場への移動距離も長い 屋外運動場へは配置の工夫によって目線が届きやすいが屋内運動場へはメディアセンター等により分断され目線が届きにくい 地域開放で使用する諸室等と屋内運動場がメディアセンターで分離されることから一体的な利用や地域開放時のセキュリティに問題がある 屋外空間が一体的に利用できる
<ul style="list-style-type: none"> 児童の出入口と車両の出入口を完全に分離することが可能である 校門と昇降口の移動距離は短い 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の出入口と車両の出入口を完全に分離することが可能である 校門と昇降口の移動距離は短い

6. 配置計画

1) 全体配置計画

- 建物の配置については、高圧線の真下を避け、校舎は現況の校舎同様に敷地の南側、屋外運動場は北側に配置し、屋内運動場は校舎と屋外運動場の間に配置します。
- 学校開放時のセキュリティに配慮し、屋内運動場の東側に地域開放時に地域住民が利用する駐車場及び駐輪場を配置します。
- 開校 100 周年記念碑は現在の位置に残置します。
- 敷地内は良好な自然環境の確保のため、積極的に緑化を行います。
- セキュリティに配慮し、敷地の周囲には生垣及びメッシュフェンスを設けます。

2) 全体動線計画

動線計画は、歩行者と車両の動線を分け、子どもたちの通学時の安全性を確保できるように以下のように設定します。

(1) 歩行者動線

- 学校敷地の外周部においては、移動等円滑化基準に適合した歩道整備を行い、適切に歩車分離を行うなど児童の通学において安全・安心な歩行環境を確保します。
- 正門は、現況の通学経路を踏まえ、四宮 2 号線に面した位置に設けます。

(2) 車両動線

- 自動車、メンテナンス車両、食材搬入車両の動線は、児童の安全性を確保するため歩行者動線と出入り口を分離し、東側から駐車場へアクセスする計画とします。
- 水泳の授業の際に利用する児童送迎用のバスはエントランス広場の一部等を利用します。



図 施設配置ゾーニング及び動線の考え方

7. 工事期間中及び開校に向けた課題等

工事期間中に想定される教育環境の変化に対応するための課題や通学路が変わる児童への対応については、今後も引き続き具体的な検討を進めていきます。

1) 工事期間中の課題

(1) 四宮小学校児童の通学路の変化

- 令和8年4月から北巢本小学校敷地にて四宮小学校と北巢本小学校を統合小学校として開校するにあたり、四宮小学校児童の通学路が変わるため、安全な通学路の確保等に向けて、関係者と検討していきます。
- 特に市内を東西に横断する国道163号は交通量が多く、また、歩車分離信号ではないため、交通専従員の配置や登校時間帯の青信号時間の延長など警察等関係者と協議を行いながら子どもたちが安全安心に通学ができるよう検討していきます。

(2) 工事中の騒音・振動等への対応

- 北巢本小学校敷地への仮設校舎建設工事期間は同じ敷地内で教育活動が行われることとなるため、対応について関係者と協議しながら検討していきます。

2) 開校に向けた課題等

(1) 新しい小学校の通学路の検討

- 令和11年4月開校の新しい小学校への通学路は、地域代表者（自治会等）、各学校の保護者（PTA）、各学校の校長などによる四宮小学校・北巢本小学校設立準備会の中で、子どもたちが安全に通学できる通学路の確保等に向けて、検討していきます。

(2) 地域開放を行う施設等の検討

- 学校における子どもと地域の交流促進に向けて、今後、地域団体等や各学校の保護者（PTA）等と活用方法や運用方法の意見交換を実施し、導入機能・規模・配置等について設計に活かしていきます。

(3) 学校整備に対する情報発信

- 新しい学校整備において、検討状況を様々な立場・環境にある子どもたちや保護者、地域の人たちに配慮しながら、四宮小学校・北巢本小学校設立準備会だよりによって定期的に情報発信を行い周知していくことで地域とともにある学校をめざしていきます。

門真市立四宮小学校・北巢本小学校統合整備基本計画 概要版
令和6年7月発行 門真市教育委員会 教育企画課

〒571-8585 門真市中町 1-1
Tel 06-6902-5779 (直通)